

地域の交流人口の拡大に挑戦 CHALLENGE



<住民の方々が主役>

地域振興課3名の職員は、村上地域の地域振興事業の企画、進捗管理を担っている。相澤課長は、「地域振興といっても範囲は広く、地域づくりや地域の活性化、交流人口の拡大を目指す観光振興や地域産業の振興など多岐にわたります。中でも交流人口の拡大を目指す観光振興を地域振興局の施策の柱の一つとして、市町村や関係団体・地域住民の方々と一緒に取り組んでいます。交流人口の拡大は地域経済の活性化や雇用の場の創出、維持にもつながり、当地域全体の活性化に大きな力となると考えています。」

富樫主査は、「重要なことは、そこに住んでいる方々が主役ということなんです。我々は、コーディネーターとして住民の方々の思いを支援していきたいと思っています。」続けて相澤課長は、「最初の一步を踏み出せるよう背中を押してあげ、その後は住民の方々が自主的に活動していく。そこに住んでいる方々の意識を変えていくお手伝いをする。地域振興局にはそうした役割が求められているんです。」

<「地域づくり」のきっかけづくり>

「「いなかご馳走まつり」がきっかけになってくれればいい。」と相澤課長は笑顔で言った。「これがきっかけで人のネットワークができれば新たな取組が生まれるんですよ。」「いなかご馳走まつり」は、村上・関川に住む「おかあちゃん」が郷土の伝統料理や自慢の料理を観光客や地元の方々に振る舞うイベントである。「おかあちゃん」たち料理担当グループが4会場で「ご馳走」を振る舞い、2週間にわたり開催される。このイベントを始めるに当たっては様々な課題があった。中でも料理を担当する参加団体の確保が難しかったという。イベントが継続して開催されることにより、リピーターができ、次につながる意見交換ができ、何より料理担当者の「おかあちゃん」の笑顔が素敵だった。「地域づくりが根底にある。住民、市町村、地元企業、関係団体そして我々で協働し新たなつながりを創る。そしてそこに住む人を元気にさせ、外から新しく入ってくる人と会うことで活性化し、活気のある地域が創られていくんですよ。」と富樫主査はうれしそうに話した。

村上地域振興局
企画振興部 地域振興課

課長
相澤 順

主事
増田 早希
(平成21年度採用:一般行政)

主査
富樫 錬太郎

<コーディネーターとして働く>

コーディネーターとして心掛けていることを聞いた。相澤課長は、「住民の思いを尊重すること。住民の思いをどう地域振興のきっかけとして生かすかが重要なことですよね。」続けて富樫主査は、「現場の声は一人ひとり違うので、とにかく話を聞くことです。そして、我々は得た情報を上手に住民に伝え、つないでいくことも必要で、それがコーディネーターの役目でもあると思います。」課のムードメーカー増田主事は、「私は村上出身で、この地域のことは知っていたつもりだったんです。でも仕事をしていくと新発見があって、知らないことがまだまだあることに気付いたんです。今は、地域のことをより知ることが目標です。」と目を輝かせていた。

おかあちゃんたち



ご馳走



会食風景

